

2019 年度平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業

「HIROSHIMA and PEACE」

Longjam Meena Devi (インパール、インド)

1 日目

2019 年 7 月 30 日

2019 年 7 月 30 日、広島市国際青年会館において、8 か国から選ばれた各参加者の紹介から平和首長会議プログラムが始まりました。私たちは全員、出身地での平和活動について手短かに発表しました。その後、スペインのバルセロナから平和首長会議プログラムの元参加者であるアンナを交えてウェブ会議を行いました。

広島市立大学夏期集中プログラム 1 日目

2019 年 7 月 31 日

広島市立大学「HIROSHIMA and PEACE」夏期集中プログラムでは、5 人から 6 人の参加者にグループ分けして円卓を囲みました。課題は、私たちにとっての平和とは何か、またそれをいかに表の中に位置付けるかをグループで議論することでした。その後、その内容を発表するよう求められました。同日には、ホストファミリーと面会し、豪勢な日本食と楽しいゲームでなごやかな時間をともに過ごすという素敵な経験をしました。またホストファミリーに日本語で自己紹介することも学びました。

2 日目

2019 年 8 月 1 日

私たちのクラスはルーク・カーソン先生による異文化コミュニケーションの講義、そしてロバート・ジェイコブス先生によるマンハッタン計画と核開発に関する話から始まりました。昼食後は、原爆ははたして命を救い、戦争を終わらせたのかという原爆神話に関するブライアン・ハレット先生の講義でした。その日は、広島市長の表敬訪問という又してもエキサイティングな告知で幕を閉じました。そこでは私が青少年交流プログラムを代表し、核戦争の恐ろしさと、出身都市のインパールにおける第二次世界大戦の意味と影響についてスピーチしました。広島市長との質疑応答やディスカッションもあり、記念写真を撮って 1 日を締めくくりました。

3 日目

2019 年 8 月 2 日

3 日目のクラスは生き延びることについてであり一存命する被爆者が登場して世界各地からの若く活気ある平和活動家たちのクラスを訪れ、証言を行いました。原爆の恐怖を証言してくださったのは小倉桂子さんです。参考資料として写真や本を持参し、私たちと交流してくださいました。私たちは全員、バスでお弁当を食べながら、歴史的な平和記念資料館の見学へ向かいました。広島平和記念資料館での経験は神経の細かい人たちには向かないものでした。資料館を通過する人は誰も、不穏な視覚表現や文章に向き合うのに苦労しました。私は子供たちのセクションの辺りで錆びた三輪車、焼け焦げた弁当箱（の中身？）、燃えた学校の

制服を見ながら、激しくすすり泣いていました。周囲を見渡してみると、私だけでなく、多くの人がそんな悲劇はあってはならなかったという痛恨の想いで忍び泣いていました。資料館での2時間の見学ツアーの後、国立追悼平和祈念館へ行き、原爆のその後を生き延びた韓国の被爆者の話を聞きました。その証言でいま一度、原子爆弾の恐怖の過去をたどることになりました。

8月3～4日（週末）

私の素敵なホストファミリー、Nさんと過ごした2日間の週末は、本当に充実して素晴らしいものでした。初日は宮島を訪れ、Nさんのお母さんの家で着物の着付け体験をしてみました。帰りにスーパーへ行き、寿司を食べてみるために新鮮な食材を買ったり、私がホストファミリーに作ったインドチャイの材料を手に入れたりもしました。翌日、私たちは市の中心部にある縮景園を訪れました。イチョウとカエデが美しく、池には鯉がいました。縮景園ではすべてがとても美しく、穏やかに見えます。また温井ダムと呼ばれる巨大なダムを訪れ、さらに安芸太田の水田までドライブし、育ち盛りの美しい自然の棚田を見学しました。帰り道ではNさんのお母さんが待っていて、漢字で「平和 (peace)」と書く手伝いをしてくださり、日本の伝統的で特別な竹筆で私の家族の名前を漢字で書いたりもしました。家に帰ると、Nさんは腕をふるってお好み焼きの有名シェフになりました。お好み焼きをたっぷり食べてから、ホームステイ先の家族であるNさんに私たちの伝統衣装を忘れずに着ていただきました。ユカさんはとてもきれいでした。

4日目

この日は、井上泰浩先生による広島と平和の理解におけるメディアの役割に関する最も重要なトピックからスタートしました。井上先生はメディアの客観性の大切さ、そしてニュース報道の扇情的な手法について要点を説明しました。また松永京子先生による韓国人被爆者に関する講義では、重要な見識を得ました。松永先生は、原爆の恐怖に関するその他の外国人被爆者の見解や証言の重要性について概要を説明しました。永井真理子先生が「広島について語る時に私たちが語るべきこと」について話されたこの日は、広島の展望に関して大変重要な勉強になりました。永井先生は、世界の平和のメッセンジャーとして広島がいかにかわしいか、また追悼記念日に大挙して訪れる観光客について詳しく説明しました。また外国人被爆者の包撰についても話されました。

5日目

5日目が最も重要な日となったのは、原爆投下を追悼する待ちわびた記念日が2019年8月6日だったからです。私たちは早朝からスタートして湯浅正恵先生が小雨のなかを先導し、それぞれの席へ向かいました。日本の首相が政治的な理由による野次を背景に演説するのを聞きました。また子どもたちの美しい合唱、広島の日と平和のメッセージを読み上げる2人の小学生にすっかり引き込まれました。原爆ドーム前の広島川には何千もの灯籠が流れ、楽しい催しの夜になりました。ゆったりしたコーラスがどこかから聞こえてきて、まるで地上の天国のようでした。

6 日目

核の歴史から核のアントロポセンまで、さまざまな主題の枠組みを取り上げた一連の講義から開始しました。福島の大災害に特に焦点をあてながら、原子力のすべてについて非常に細かく分析しました。一日の終わりは、いつものようにグループディスカッションの後でふり返りの時間をとりました。

7 日目、8 日目

それぞれの最終プロジェクトプレゼンテーションに向けてグループに振り分けられ、最も重要な 2 日間になりました。

行動計画

1. 広島平和プログラムへの訪問中に記録したすべての動画、ショートインタビュー、写真をインパクトのあるドキュメンタリーにまとめる。
2. 広島市長たちからの平和構築に向けたメッセージを拡散するため、記者会見への参加を求める。
3. 無料のチラシやパンフレットを配布し、核兵器禁止条約をテーマにした署名・請願キャンペーンを組織する。
4. 大学およびさまざまな機関で平和ポスターキャンペーンを組織する。
5. すべての教育機関、青少年クラブ、カフェ、自治体における反応を高める。
6. 単科大学および総合大学における平和教育のアイデアを提案し、売り込む。
7. 平和構築と核兵器廃絶をテーマにした絵、作文、討論のコンテストを開催し、子どもたちの反応を高める。
8. さまざまな学校や大学で、核のない世界の重要性に関して私自身の学習経験を共有する。
9. 核兵器について語る方法は、その人類に対する本当の容認しがたい影響を反映したものでなければならない。そこで、核兵器の使用・実験を生き抜いた人たちの話に耳を傾け、広く世間に共有する。

インドおよび近隣諸国の国民は近年、首相の一人による「彼らの国が核兵器の最初の使用者になることはない」という発言をきっかけとして、核戦争をめぐる緊張状態にあります。まさにこの発言こそ、その国が核兵器を保有することを示しています。これにより両国民の脳裏には、保有する核兵器を完全に破壊して緊張を取り除かない限り、未来はどうなってしまうのかという思いが浮かびました。インド亜大陸で今必要なのは、起こりうる核のホロコーストに対する地域の人びとの意識を絶えず呼び覚ましておくことです。広島市立大学で今回受けた研修は、この線に沿って果たすべき役割へ私を導いてくれました。

さらに、核兵器禁止条約（TPNW）第 1 条は核兵器またはその他の核爆発装置の使用および開発を厳しく禁じています。TPNW は 2017 年、ニューヨークの国連総会で採択されました。しかし、TPNW を発効するには 50 か国の署名が必要であり、これまで 33 か国しか批准していません。

核兵器禁止運動は数十年にわたって継続中です。率直に言って、世界は広島と長崎の原爆投下という最悪の事態、チェルノブイリ原発事故、そしてボパール化学工場事故による悲劇を

目の当たりにしてきました。2017年のノーベル平和賞受賞者である ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）は、世界の3分の2の国々は TPNW を支持していると述べました。つまり、世界が絶滅の恐れなく明るい未来を実現できるように、TPNW を発効させるためにあとほんの少しの努力が必要なのです。

人類の文明が到来してから、私たちの世界のさまざまな場所で戦争は終わることなく続いてきました。私たち人類、ホモサピエンスは地球で最も知的な種です。私たちはそのあくなき研究から、自分たちの惑星である地球をすっかり壊してしまいました。好奇心による発明で自らの死を招くフランケンシュタインのような人種になることを、私たちは望んではいません。

ですから、今こそ私たちは行動し、一瞬で私たちを絶滅させるだけの核拡散を制御しなければなりません。

過去から学び、自分たちにしてきたことを繰り返さないようにしましょう。平和と繁栄に向けて前進していきましょう。核のない世界へ邁進し、平和に共存しましょう！

ヘイワ！

平和……。